

令和3年度

仙北市

「全国学力・学習状況調査」

結果分析・改善委員会

報 告 書

令和4年2月

目 次

I	報告書の作成にあたって	1
II	調査の概要	2
1	調査の目的	2
2	実施主体	2
3	参加主体	2
4	調査の対象	2
5	調査事項及び手法	2
6	調査の方式	3
7	調査期日	3
8	5月27日に調査を実施した児童生徒数・学校数	3
III	結果	4
1	教科に関する調査の結果	4
(1)	概要	4
(2)	設問分類・区分別集計結果から	6
(3)	各設問の集計結果から	9
2	児童生徒質問紙調査の結果	13
(1)	概要	13
(2)	小学校6年生にみられる望ましい傾向	13
(3)	小学校6年生にみられる課題とされる傾向	15
(3)	中学校3年生にみられる望ましい傾向	18
(5)	中学校3年生にみられる課題とされる傾向	20
(6)	現中学校3年生の小学校6年生時との経年比較による成果	23
(7)	現中学校3年生の小学校6年生時との経年比較による課題	24
(8)	仙北市の目指す子ども像に関わる3年間の比較	25
3	学校質問紙調査の結果	27
(1)	概要	27
(2)	成果と考えられる項目	27
(3)	今後の検討課題と考えられる項目	29
IV	改善の方法	30
1	全体的な取組として	30
(1)	指導改善の具体策	32
(2)	仙北市学力向上施策の焦点化	34
(3)	各中学校区の情報交換から	34
(4)	共通実践すべき具体的方策	35
2	学年・教科・区分・設問ごとの具体的な改善の方策	36
3	改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について	37
V	参考資料	38
資料1	「全国学力・学習状況調査」結果取扱要綱	38
資料2	令和3年度「仙北市全国学力・学習状況調査」結果分析・改善委員会名簿	41

I 報告書の作成にあたって

本報告書は、「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」に則って作成した。
報告書作成の基本的な立場については「第2条（結果の公表）」に基づき、また、その内容については、「第4条（改善策の立案）」の規定に従っている。

（結果の公表）

第2条

仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- (1) 教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- (2) 本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- (3) 本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- (4) 本調査により測定した学力は特定の一部であること
- (5) 本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

（改善策の立案）

第4条

結果を受けた改善策は仙北市教育委員会北浦教育文化研究所「研究主任部会」及び「算数・数学学習指導研究委員会」、「国語学習指導研究委員会」に改善策の立案に必要な若干名の特別委員を加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- (1) 主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- (2) 主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- (3) 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- (4) その他

以上の点を踏まえて、仙北市教育委員会が仙北市民に対する説明責任を果たし、学校の教育及び教育委員会の教育施策の改善に資することを目的として本報告書を作成した。

Ⅱ 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施主体 文部科学省

3 参加主体 市町村教育委員会

4 調査の対象

【小学校調査】

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

【中学校調査】

中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、
中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

5 調査事項及び手法

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語、算数・数学〕

国語、算数・数学はそれぞれの（ア）と（イ）を一体的に出題。

（ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、
実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

（イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

② 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施

6 調査の方式 悉皆調査

7 調査期日 令和3年5月27日（木）

8 5月27日に調査を実施した児童生徒数・学校数

小学校児童数	児 童 数 （人）		
	国語	算数	質問紙
全国（公立）	993,975	994,101	
秋田県（公立）	6,669	6,669	
仙北市教育委員会	166	166	166

中学校生徒数	生 徒 数 （人）		
	国語	数学	質問紙
全国（公立）	903,157	903,253	
秋田県（公立）	6,745	6,745	
仙北市教育委員会	202	202	202

調査実施校数	5月27日に調査を実施した小学校 義務教育学校前期課程 特別支援学校小学部	5月27日に調査を実施した中学校 義務教育学校後期課程 中等教育学校前期課程 特別支援学校中学部
全国（公立）	18,857校	9,320校
全国（国立）	61校	63校
全国（私立）	120校	297校
合計	19,308校	9,680校
仙北市教育委員会	6校	5校

Ⅲ 結果

- ※ 本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が国語、算数・数学、英語の3教科であり、また、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではない。従って、本調査の結果については児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校等における教育活動の一側面にすぎないことに留意する必要がある。
- ※ 「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」第2条に基づき、教科に関する調査結果の数値による公表は行わない。〈表2〉の階層区分と表現による公表としている。

1 教科に関する調査の結果

(1) 概要

本調査における全国調査校（以下、全国）及び秋田県調査校（以下、秋田県）の平均正答率と仙北市調査校（以下、仙北市）の平均正答率を、小学校6年国語・算数、中学校3年国語・数学のそれぞれで比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

【成果】

- ① 国及び秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、〈表1〉にあるように、仙北市の小学校6年生の国語、算数の学習状況は「概ね満足できる状況」もしくは「十分満足できる状況」である。
- ② 国及び秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、〈表1〉にあるように、中学校3年生の国語、数学の学習状況は「概ね満足できる状況」である。

【課題】

- ① 秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、小学校6年生国語において仙北市が若干下回っている。
- ② 秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、中学校3年生国語、数学において仙北市が若干下回っている。
- ③ 中学校3年生が小学校6年生時の平均正答率と比較した場合、全ての教科において全国平均を上回る割合は、ほぼ同程度となっている。

〈表 1〉：全国及び秋田県の平均正答率との比較（教科別）

学年	教科等	区分	平均正答率	仙北市の状況
小学校 6年	国語	全国(公立)	64.7%	十分満足できる状況
		秋田県(公立)	71%	概ね満足できる状況
	算数	全国(公立)	70.2%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	72%	概ね満足できる状況
中学校 3年	国語	全国(公立)	64.6%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	68%	概ね満足できる状況
	数学	全国(公立)	57.2%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	60%	概ね満足できる状況

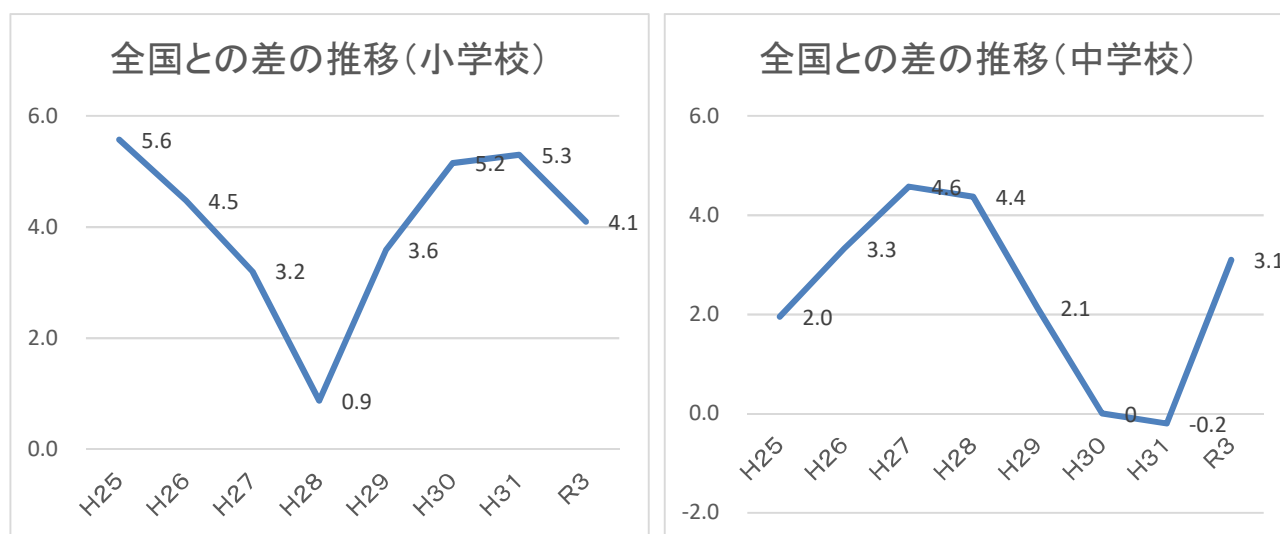
※〈表 1〉の「仙北市の状況」は、国及び県の平均正答率と比較し、〈表 2〉の表現にしたがって示した。

〈表 2〉：〈表 1〉の「仙北市の状況」に係る階層区分と表現（以下の表同じ）

	階層区分	表現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +6%以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +6%未満～-6%より大きい状況であるもの	概ね満足できる状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が -6%以下であるもの	改善が必要な状況

※〈表 2〉は「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」第 3 条（別表 2）による。

〈グラフ 1〉：全国と仙北市との平均正答率の差の推移（実施した全教科の平均）



(2) 設問分類・区分別集計結果から

本調査における設問を「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」で分類し、全国及び秋田県と仙北市の平均正答率を比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

また、仙北市の状況の中で学年・教科・区分について「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の視点から、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

【成果】

- ① 全国と仙北市の平均正答率の比較では、小学校6年、中学校3年ともに国語、算数・数学の全ての区分において、「概ね満足できる状況」あるいは「十分満足できる状況」である。
- ② 同様に全国と仙北市の平均正答率の比較からは以下のことが言える。
 - ア) 小学校6年国語では、全ての区分において全国の平均正答率を上回っており、「指導要領の領域」の「書くこと」、「問題形式」の「記述式」が「十分満足できる状況」にある。
 - イ) 小学校6年算数では、全ての区分において、「概ね満足できる状況」である。
 - ウ) 中学3年国語では、全ての区分において、「概ね満足できる状況」である。
 - エ) 中学校3年数学では、全ての区分において全国の平均正答率を上回っており、「概ね満足できる状況」にある。
- ③ 秋田県と仙北市の平均正答率の比較からは以下のことが言える。
 - ア) 小学校6年国語では、「指導要領の領域」の「話すこと・聞くこと」「書くこと」が県の平均正答率を上回っている。
 - イ) 小学校6年算数では、「指導要領の領域」の「図形」、「評価の観点」の「知識・技能」、「問題形式」の「短答式」が県の平均正答率を上回っている。
 - ウ) 中学校3年国語では、「指導要領の領域」の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「評価の観点」の「国語への関心・意欲・態度」「言語についての知識・理解・技能」、「問題形式」の「短答式」「記述式」が県の平均正答率を上回っている。
 - エ) 中学校3年数学では、「指導要領の領域」の「資料の活用」、「問題形式」の「短答式」が県の平均正答率を上回っている。

【課題】

- ① 秋田県と仙北市の平均正答率を比較した場合、次のような課題がある。
 - ア) 小学校6年国語では、全ての区分において「概ね満足できる状況」ではあるが、「指導要領の領域」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「読むこと」について改善を図る必要がある。
 - イ) 小学校6年算数では、全ての区分において「概ね満足できる状況」であり、「学習指導要領の領域」の「測定」「変化と関係」について更なる向上が期待できる。
 - ウ) 中学校3年国語では、全ての区分において「概ね満足できる状況」であり、「学習指導要領の領域」の「読むこと」について更なる向上が期待できる。
 - エ) 中学校3年数学では、全ての区分において「概ね満足できる状況」であり、「指導要領の領域」の「図形」について更なる向上が期待できる。

〈表 3－(1)〉：「小学校 6 年国語」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導領域の要領	言葉の特徴や使い方にに関する事項（知・技）	6	75.1	68.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	情報の扱い方にに関する事項（知・技）	0				
	我が国の言語文化に関する事項（知・技）	0				
	話すこと・聞くこと（思・判・表）	3	82.6	77.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書くこと（思・判・表）	2	69.4	60.7	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読むこと（思・判・表）	3	51.8	47.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価点の観	知識・技能	6	75.1	68.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	思考・判断・表現	8	67.8	62.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	8	77.2	71.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	3	76.9	70.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	3	48.3	40.2	概ね満足できる状況	十分満足できる状況

〈表 3－(2)〉：「小学校 6 年算数」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導領域の要領	数と計算	4	68.1	63.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	図形	3	57.0	57.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	測定	3	77.5	74.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	変化と関係	3	75.7	75.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	データの活用	5	79.0	76.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価点の観	知識・技能	9	74.7	74.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	思考・判断・表現	7	69.1	65.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	6	77.0	76.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	6	76.6	75.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	4	58.8	53.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

〈表 3－(3)〉：「中学校 3 年国語」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域	話すこと・聞くこと	3	82.4	79.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書くこと	3	61.1	57.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読むこと	4	52.2	48.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	78.6	75.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 の 観 点	国語への関心・意欲・態度	4	60.6	56.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	話す・聞く能力	3	82.4	79.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書く能力	3	61.1	57.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読む能力	4	52.2	48.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	4	78.6	75.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題 形式	選択式	6	67.1	63.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	4	77.2	74.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	4	60.6	56.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

〈表 3－(4)〉：「中学校 3 年数学」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域	数と式	5	68.1	64.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	図形	4	53.8	51.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	関数	3	61.8	56.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	資料の活用	4	56.6	53.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 の 観 点	数学への関心・意欲・態度	0				
	数学的な見方や考え方	7	44.0	41.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数学的な技能	3	80.0	77.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量・図形などについての知識・理解	6	70.1	65.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題 形式	選択式	2	55.9	52.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	9	73.9	70.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	5	38.3	35.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

(3)各設問の集計結果から

ここでは、仙北市の状況の中で学年・教科・区分について、設問ごとの結果から改善のために検討の余地があるもののうち、特徴的なものについて示す。

①小学校6年「国語」について

ア) 「設問番号2三」「面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く」では、「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「読むこと」、「評価の観点」では「思考・判断・表現」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

イ) 「設問番号2四」「面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く」では、「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「読むこと」、「評価の観点」では「思考・判断・表現」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

ウ) 「設問番号3三(1)ウ」「丸山さんの【文章の下書き】の中の——部ウを漢字を使って書き直す(つみ重ね)」では、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「評価の観点」では「知識・技能」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

エ) 「設問番号3三(2)オ」「丸山さんの【文章の下書き】の中の——部オで、～～部『すぐに』が詳しく説明している言葉として適切なものを選択する」では、「文の中における修飾と被修飾との関係を捉える」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「評価の観点」では「知識・技能」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

<指導の改善点>

- ◆ 目的に応じ、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つけることができるようにする。
- ◆ 目的を意識し、中心となる語や文を見つけて要約することができるようにする。
- ◆ 文脈に沿って、正しい漢字を書くことができるようにする。
- ◆ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることができるようにする。

②小学校6年「算数」について

ア)「設問番号1(3)」 「アとイの二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ」では、「速さを求める除法の式と商の意味を理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「変化と関係」、「評価の観点」では「知識・技能」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号2(1)」 「直角三角形の面積を求める式と答えを書く」では、「三角形の面積の求め方について理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「図形」、「評価の観点」では「知識・技能」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

ウ)「設問番号2(3)」 「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く」では、「複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成を捉えて面積の求め方と答えを記述できる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「図形」、「評価の観点」では「思考・判断・表現」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

エ)「設問番号3(4)」 「帯グラフから、割合の違いが一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く」では、「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「データの活用」、「評価の観点」では「思考・判断・表現」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

オ)「設問番号4(3)」 「30mを1としたときに12mが0.4にあたるわけを書く」では、「小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数にあたる理由を記述できる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と計算」、「評価の観点」では「思考・判断・表現」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

<指導の改善点>

- ◆ 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方について理解できるようにする
- ◆ 図形を構成する要素などに注目し、面積の求め方について筋道を立てて説明できるようにする
- ◆ 量のもつ基本的な性質について理解し、それらの性質を基に考察できるようにする
- ◆ 統計的に問題解決するために、データを分類整理し、データの特徴や傾向を読み取ることができるようになる
- ◆ 小数を用いた倍の意味について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に注目して理解できるようにする

③中学校3年「国語」について

ア) 「設問番号 1 三」 「参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く」では、「話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「話すこと・聞くこと」、「評価の観点」では「国語への関心・意欲・態度」と「話す・聞く能力」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

イ) 「設問番号 2 一」 「意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する」では、「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「書くこと」、「評価の観点」では「書く能力」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

ウ) 「設問番号 3 一」 「『呼吸を飲み込んだ』の意味として適切なものを選択する」では「文脈の中における語句の意味を理解する」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「読むこと」、「評価の観点」では「読む能力」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

エ) 「設問番号 3 四」 「『吾輩』が『黒』をどのように評価し、どのような接し方をしているのかや、そのような接し方をどう思うかを書く」では「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「読むこと」、「評価の観点」では「国語への関心・意欲・態度」と「読む能力」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

オ) 「設問番号 4 三」 「『行く』を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する」では「相手や場に応じて敬語を適切に使う」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「評価の観点」では「言語についての知識・理解・技能」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

<指導の改善点>

- ◆ 話し合いを効果的に進め、お互いの発言を踏まえて、考えをまとめたり広げたり深めたりすることができるようにする
- ◆ 相手の立場に立ち、自分が書いた文章について捉え直し、わかりやすい文章に整えることができるようにする
- ◆ 文章の内容を理解したり、自分の考えを形成したりすることができるようにする
- ◆ 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができるようにする

④中学校3年「数学」について

ア) 「設問番号6(3)」 「四角で4つの数を囲んだ和が、どの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する」では、「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と式」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

イ) 「設問番号7(2)」 「与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する」では、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「関数」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

ウ) 「設問番号8(2)」 「2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いる前提となっている考えを選ぶ」では、「相対度数の意味と必要性を理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「資料の活用」、「評価の観点」では「数量についての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

エ) 「設問番号8(3)」 「『日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある』と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する」では、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「資料の活用」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

オ) 「設問番号9(1)」 「四角形ABCDが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する」では、「平行四辺形になるための条件を用いて、平行四辺形になる理由を説明することができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「図形」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

カ) 「設問番号9(3)」 「 $\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く」では、「ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「図形」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

<指導の改善点>

- ◆ 数の性質について成り立つ事柄の特徴を数学的に説明することができるようにする
- ◆ 関数の学習の中で、「表・式・グラフ」のうち「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明できるようにする
- ◆ 大きさの異なる2つ以上の集団のデータを比較する際に、相対度数の意味や必要性理解することができるようにする
- ◆ データの傾向をグラフや表などから的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる
- ◆ ある条件の下で図形を移動させたときに常に成り立つ事柄を見だし、数学的に表現することができるようにする

2 児童生徒質問紙調査の結果

(1) 概要

本調査における児童生徒質問紙調査について、仙北市の特に顕著な傾向がみられるものについて示す。

全国及び秋田県の状況と比較した場合、仙北市の小学校6年生と中学校3年生は、若干の課題はみられるものの、全体としては望ましい傾向にあると言える。

特に「規範意識の向上」「地域や社会との関わり」「ICT機器の活用」に肯定的な回答率が高い傾向が見られた。

(2) 小学校6年生にみられる望ましい傾向

※ 「肯定的回答率」の高い質問

小学校6年生の質問事項58項目に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合）が、95%を超えた質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問番号	質問事項	肯定的回答率
1	(30)	あなたは、家で良く会話をしていますか	98.8
2	(36)	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか	97.6
3	(44)	国語の勉強は大切だと思いますか	97.0
3	(12)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.0
5	(11)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.9
6	(53)	算数の勉強は大切だと思いますか	96.4
7	(1)	朝食を毎日食べていますか	96.4
8	(28)	学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	95.8
9	(59)	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	95.8
10	(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	95.2
11	(58)	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	95.1

※ 全国との比較から

児童質問紙調査のうち、全国の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が＋13ポイント以上のものは次の表のとおりである。（県の割合との比較は参考のために示した。）

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率	全国 比較	県 比較
1	(40)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	92.2	18.8	5.1
2	(65)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか	82.5	17.9	4.3
3	(17)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	91.5	17.5	2.5
4	(48)	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	80.7	16.9	6.9
5	(34)	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか	83.7	16.5	3.5
6	(24)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	72.9	14.8	-0.8
7	(9)	難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	84.9	14.0	3.8
8	(41)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	87.4	13.9	1.6
8	(49)	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか	85.5	13.9	2.9
10	(43)	国語の勉強は好きですか	71.7	13.3	0

※ 秋田県との比較から

児童質問紙調査のうち、秋田県の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+5ポイント以上のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率	県比較
1	(26)	5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか	51.2	20.5
2	(68)	解答時間は十分でしたか（国語）	82.6	10.3
3	(32)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	75.9	6.9
4	(48)	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	80.7	6.9
5	(54)	算数の授業の内容はよく分かりますか	94.5	6.3
6	(69)	解答時間は十分でしたか（算数）	82.5	5.2
7	(40)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	92.2	5.1

(3) 小学校6年生にみられる課題とされる傾向

※ 「肯定的回答率」の低い質問

小学校6年生の質問事項58項目に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合）が、50%未満の質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率
1	(23)	新聞を読んでいますか	19.9
2	(64)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか 不安を感じなかった人の割合⇒	23.5
3	(63)	これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）	39.2

※ 全国との比較から

児童質問紙調査のうち、全国の小学校６年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校６年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－３ポイント以下のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率	全国比 較
1	(4)	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、 家の人と約束したことを守っていますか	63.2	-6.9
2	(6 3)	これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか (地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど)	39.2	-5.2
3	(6 1)	英語の勉強は好きですか	63.8	-4.5

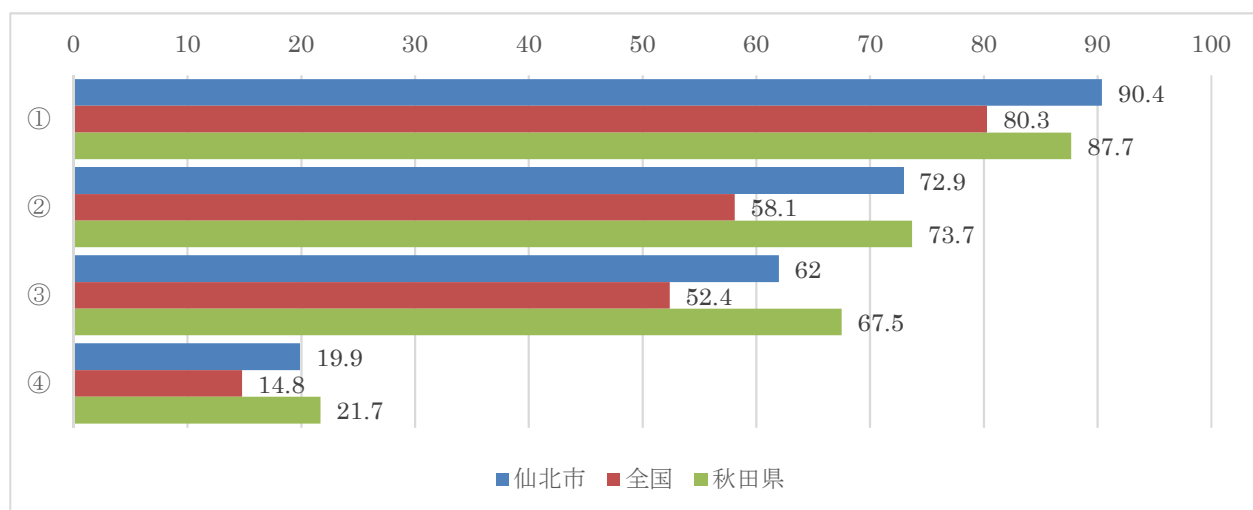
※ 秋田県との比較から

児童質問紙調査のうち、秋田県の小学校６年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校６年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－３ポイント以下のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率	県比較
1	(6 1)	英語の勉強は好きですか	63.8	-12.1
2	(1 5)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	71.7	-8.4
3	(4)	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、 家の人と約束したことを守っていますか	63.2	-8.3
4	(2 5)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	62.0	-5.5
5	(6)	自分には、よいところがあると思いますか	79.5	-4.5
6	(5 6)	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	79.6	-4.2
7	(1 6)	友達と協力するのは楽しいと思いますか	92.8	-3.6

※ 仙北市の重点目標や重点施策に関する項目

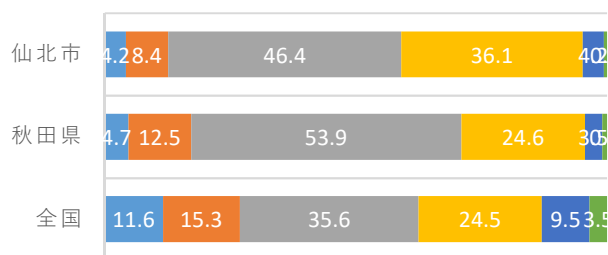
質 問 項 目	仙北市	全国	秋田県
①将来の夢や目標を持っている	90.4	80.3	87.7
②今住んでいる地域の行事に参加している	72.9	58.1	73.7
③地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている	62.0	52.4	67.5
④新聞を読んでいる	19.9	14.8	21.7



※ 家庭学習時間・ゲーム時間

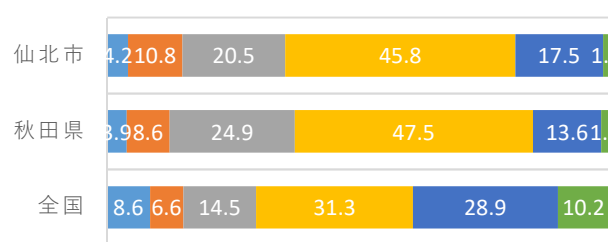
平日の家庭学習時間

- 3時間以上
- 2～3時間
- 1～2時間
- 30分～1時間
- 30分未満
- 全くしない



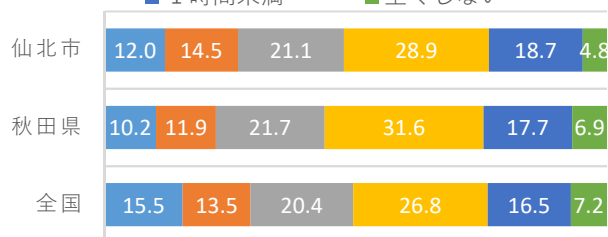
土日の家庭学習時間

- 4時間以上
- 3～4時間
- 2～3時間
- 1～2時間
- 1時間未満
- 全くしない



平日のゲーム時間

- 4時間以上
- 3～4時間
- 2～3時間
- 1～2時間
- 1時間未満
- 全くしない



(4) 中学校3年生にみられる望ましい傾向

※ 「肯定的回答率」の高い質問

中学校3年生の質問事項69項目に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合）が、95%を超えた質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率
1	(11)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	98.5
2	(28)	学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	98.0
3	(59)	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	97.6
4	(1)	朝食を毎日食べていますか	97.1
5	(44)	国語の勉強は大切だと思いますか	97.0
6	(46)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	96.1
6	(36)	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていますか	96.1
8	(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	96.0
9	(12)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.6
10	(42)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	95.5
10	(30)	あなたは、家でどれくらい日本語を話しますか	95.5

全国との比較から

生徒質問紙調査のうち、全国の中学校 3 年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校 3 年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+ 1 3 ポイント以上のものは次の表のとおりである。（県の割合との比較は参考のために示した。）

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率	全国 比較	県 比較
1	(2 4)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	77.8	34.1	22.1
2	(2 6)	1, 2 年生のときに受けた授業で、コンピュータなどの I C T 機器をどの程度使用しましたか	53.5	20.1	16.4
3	(2 5)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	63.4	19.6	0.7
4	(3 4)	1, 2 年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか	77.7	18.2	0.7
5	(4 8)	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	79.2	17.9	6.1
6	(5 6)	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	67.8	17.2	4.2
7	(6 0)	今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか	74.8	17.0	7.1
8	(3 9)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	86.1	15.9	-2.1
9	(4 9)	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか	90.1	15.5	5.8
10	(3 5)	1, 2 年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	89.6	15.3	5.7
11	(1 7)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	78.7	15.2	3.9
12	(4 0)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	89.1	15.2	1.2
13	(3 8)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	89.6	15.0	5.4
14	(4 3)	国語の勉強は好きですか	75.7	14.9	4.7
15	(4 1)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	84.6	14.8	-0.3
16	(6 2)	1, 2 年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか	81.7	14.0	2.7
17	(6 5)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか	51.0	13.4	4.8

秋田県との比較から

生徒質問紙調査のうち、秋田県の中学校3年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校3年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+5ポイント以上のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率	県比較
1	(24)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	77.8	22.1
2	(26)	1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか	53.5	16.4
3	(60)	今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか	74.8	7.1
4	(48)	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	79.2	6.1
5	(49)	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか	90.1	5.8
6	(35)	1, 2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	89.6	5.7
7	(52)	数学の勉強は好きですか	68.8	5.5
8	(38)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	89.6	5.4

(5) 中学校3年生にみられる課題とされる傾向

※ 「肯定的回答率」の低い質問

中学校3年生の質問事項69項目に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合）が、50%未満の質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率
1	(23)	新聞を読んでいますか	17.4
2	(64)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか 不安を感じなかった人の割合⇒	30.7
3	(63)	これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）	36.2

※ 全国との比較から

生徒質問紙調査のうち、全国の中学校 3 年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校 3 年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－3 ポイント以下のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率	全国比 較
		※全国比較－3 ポイント以下の質問なし		

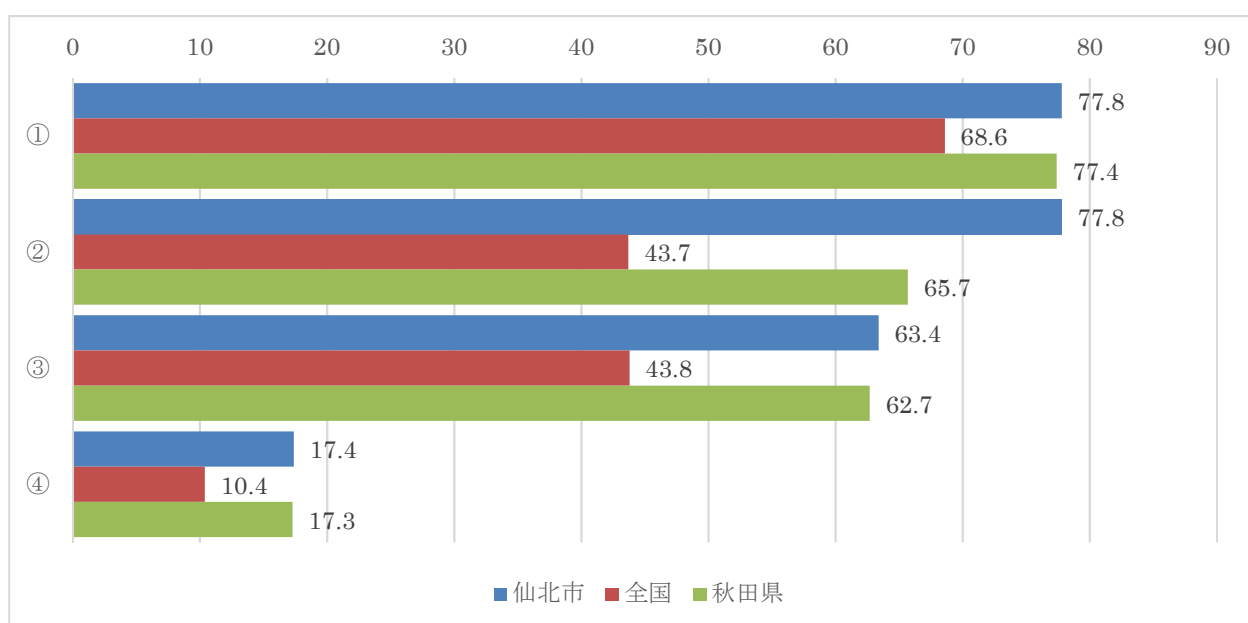
※ 秋田県との比較から

生徒質問紙調査のうち、秋田県の中学校 3 年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校 3 年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－3 ポイント以下のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率	県比較
1	(4)	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、 家の人と約束したことを守っていますか	67.3	-4.2

※ 仙北市の重点目標や重点施策に関する項目

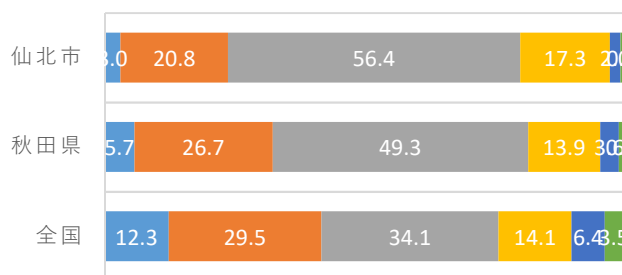
質 問 項 目	仙北市	全国	秋田県
①将来の夢や目標を持っている	77.8	68.6	77.4
②今住んでいる地域の行事に参加している	77.8	43.7	65.7
③地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている	63.4	43.8	62.7
④新聞を読んでいる	17.4	10.4	17.3



※ 家庭学習時間・ゲーム時間

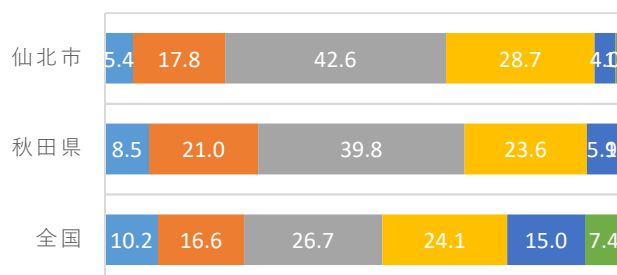
平日の家庭学習時間

■ 3時間以上 ■ 2～3時間 ■ 1～2時間
■ 30分～1時間 ■ 30分未満 ■ 全くしない



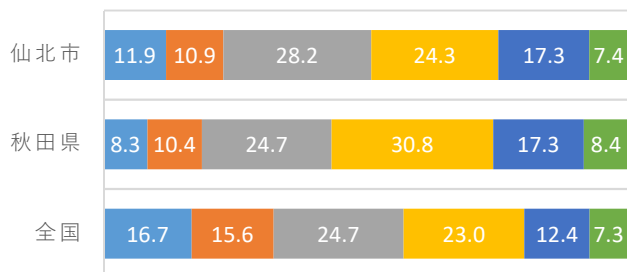
土日の家庭学習時間

■ 4時間以上 ■ 3～4時間 ■ 2～3時間
■ 1～2時間 ■ 1時間未満 ■ 全くしない



平日のゲーム時間

■ 4時間以上 ■ 3～4時間 ■ 2～3時間
■ 1～2時間 ■ 1時間未満 ■ 全くしない

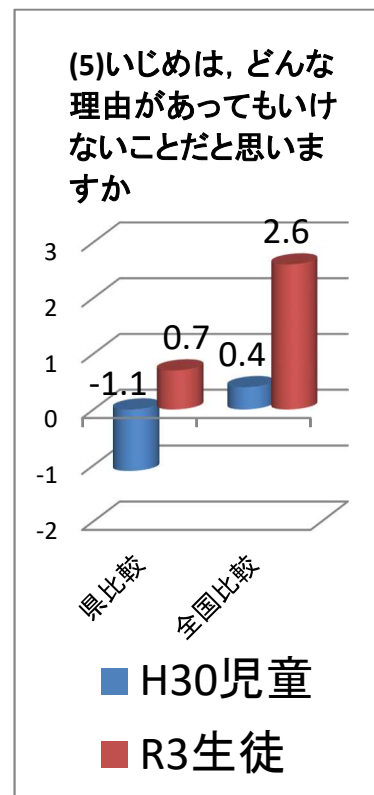
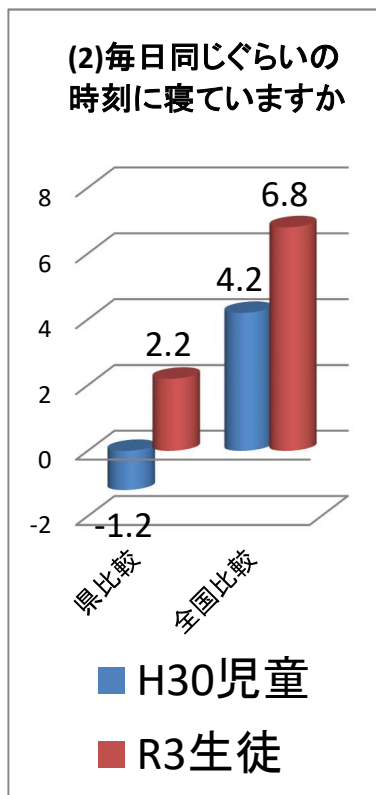
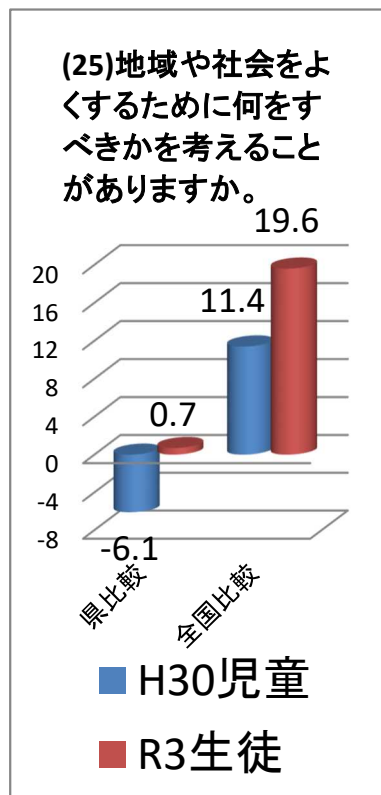


(6) 現中学校3年生の小学校6年生時との比較による成果

現中学校3年生の、小学校6年生時と比較した際に成果とみられる質問事項を以下に示す。肯定的回答率が前回と比べて上昇し、開きが顕著なものは次の事項である。

NO	質問 番号	質 問 事 項	R3 生徒	H30 児童	経年差
1	(18)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※2時間以上勉強をしている割合	23.8	12.7	11.1
2	(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	86.6	81.2	5.4
3	(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	96.0	91.9	4.1
4	(1)	朝食を毎日食べていますか	97.1	94.8	2.3
5	(25)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	63.4	61.3	2.1
6	(11)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	98.5	97.2	1.3

上記事項に関わる質問事項のうち、秋田県や全国との比較でも肯定的回答率が上昇したのは、次の事項である。



- 「郷土愛の向上」に成果が見られた。ふるさと学習が充実していたことが読み取れる。
- 「基本的な生活習慣の確立」に成果が見られた。生活指導が充実していたことが読み取れる。
- 「規範意識の向上」に成果が見られた。道徳教育や特別活動の充実が読み取れる。

（７）現中学校３年生の小学校６年生時との比較による課題

中学校３年生の、小学校６年生時と比較した際に課題とみられる質問事項を以下に示す。肯定的回答率が前回と比べて下降しているものは次の事項である。

NO	質問 番号	質 問 事 項	R3 生徒	H30 児童	経年差
1	(7)	将来の夢や目標を持っていますか	77.8	94.3	-16.5
2	(6)	自分には、よいところがあると思いますか	81.7	91.0	-9.3
3	(23)	新聞を読んでいますか	17.4	23.1	-5.7
4	(17)	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	78.7	83.4	-4.7
5	(24)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	77.8	78.7	-0.9

上記事項に関わる質問事項のうち、秋田県や全国との比較で肯定的回答率が下降した事項はないが、改善が望まれる事項は次のとおりである。

- 「将来の夢や目標を持つ」ことに課題が見られた。コロナ禍により暗い話題が多かったことも影響していると思われるが、小中の連携を密にし９年間を見越したキャリア教育の更なる推進が望まれる。
- 「自己有用感」に課題が見られた。自己肯定感を育てることを意識した授業改善、失敗しても励まし合える人間関係の醸成などが望まれる。
- 「新聞を読むこと」に課題が見られた。国語科に限らず、新聞を使った授業の推進（NIEの推進）を図り、新聞を含めた活字に触れる機会を増やしていくことが望まれる。

※注） NIE : newspaper in education

(8) 仙北市学校教育目標に関わる事項の経年比較

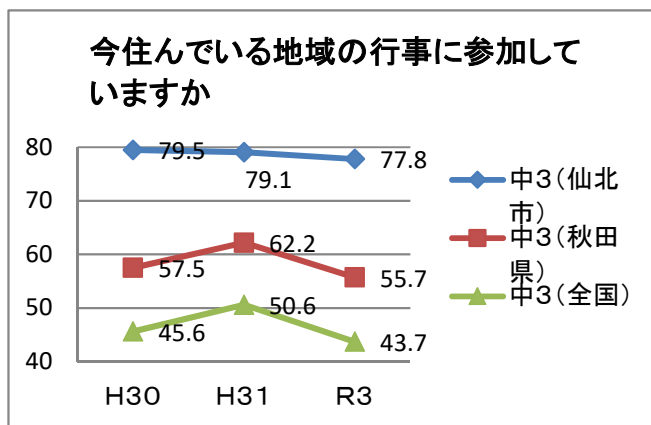
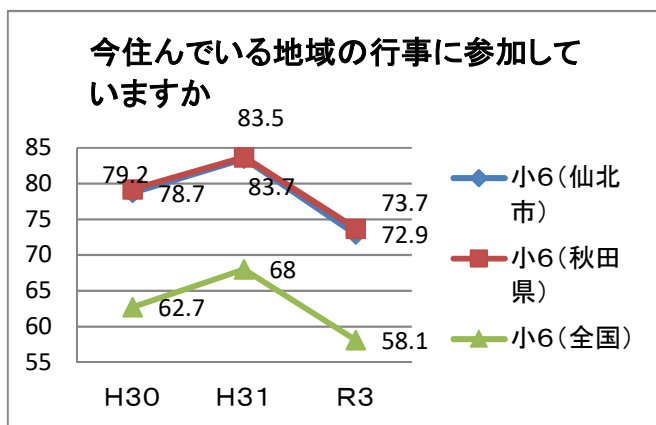
仙北市の学校教育目標に関わる「地域・家庭との連携」「自己有用感」についての直近3年間の肯定的回答率の変化を次に示す。

学校教育目標

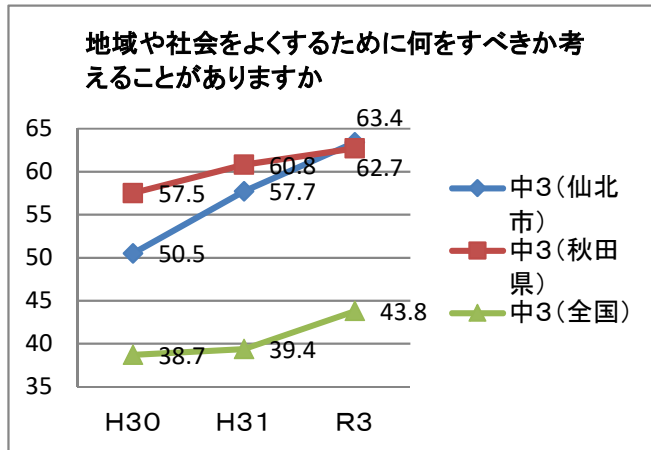
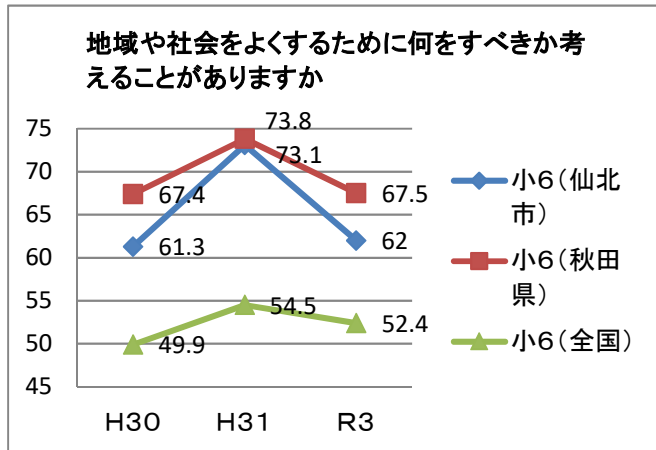
「ふるさとを愛し、豊かな心・確かな学力・健やかな体をもち、

未来の地域や社会を支える意欲と高い志にあふれる仙北の子ども」

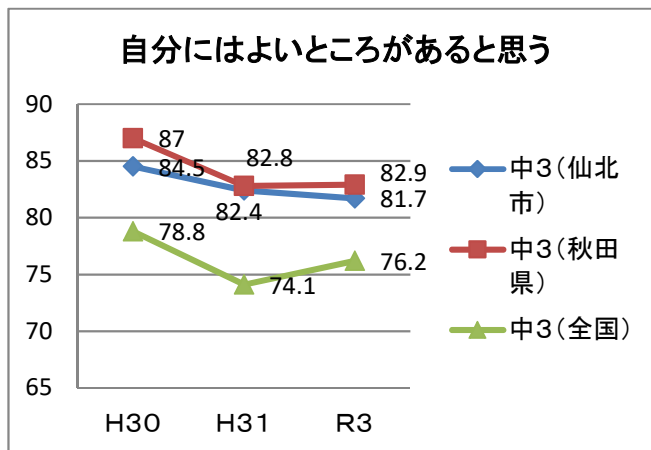
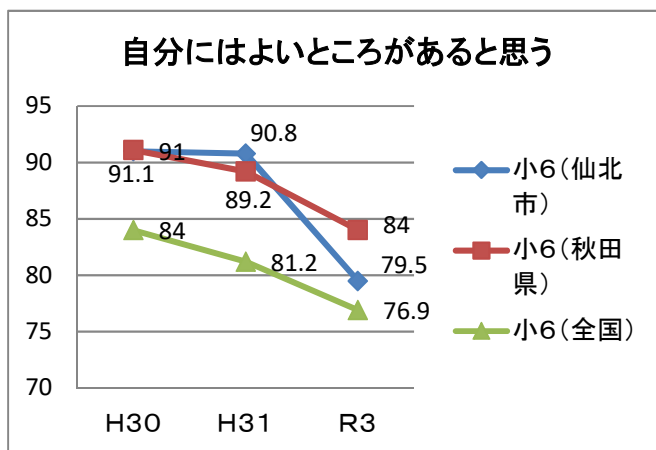
☆今住んでいる地域の行事に参加していますか



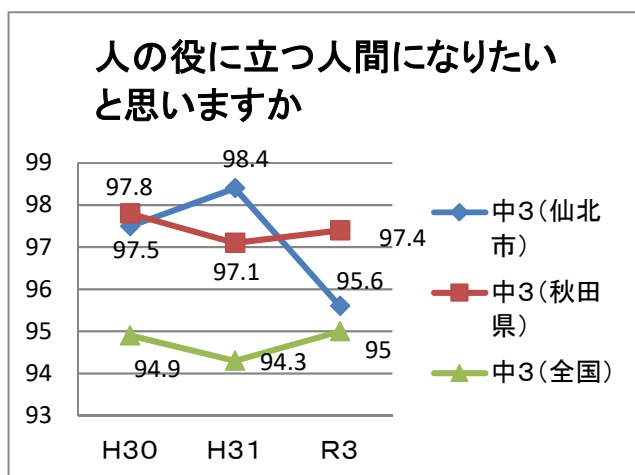
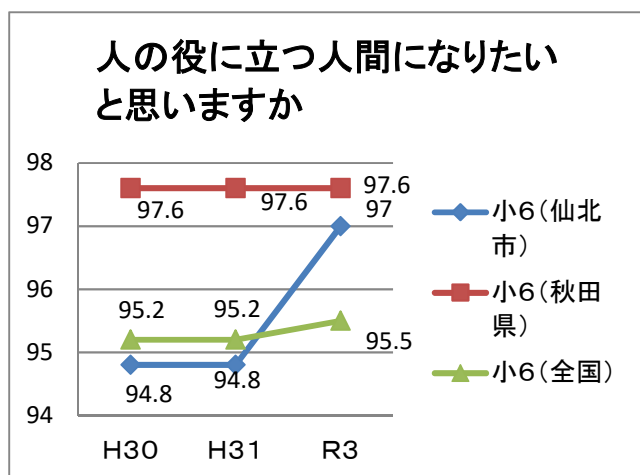
☆地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることはありますか



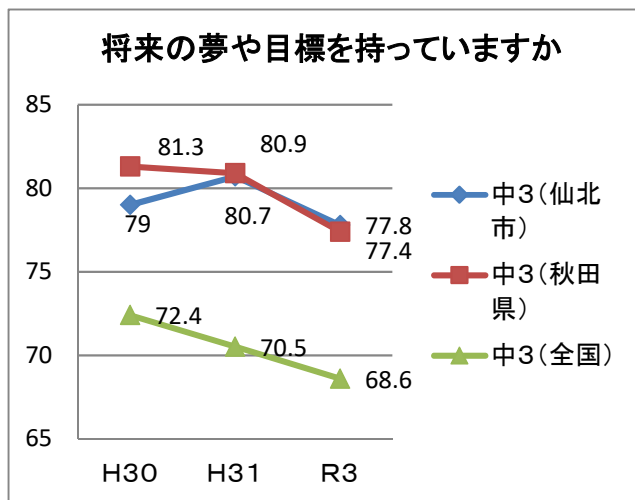
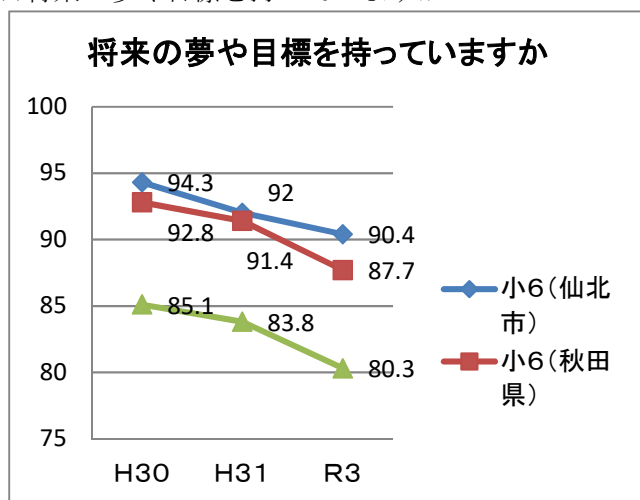
☆自分には、よいところがあると思う



☆人の役に立つ人間になりたいと思いますか



☆将来の夢や目標を持っていますか



仙北市の学校教育目標に関わる質問事項については、どの項目でも肯定的回答率が高い。各校において学校教育目標を意識して授業等に取り組んでいることが伺える。

特筆すべきは「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の肯定的な回答率が国や県と比較して特に高いことである。これは中学校において顕著である。学習や部活動で忙しい中でも地域の行事に参加していることから、地域とのつながりが強く、各学校において充実した「ふるさと教育」がなされていることが読み取れる。コロナ禍により、地域行事が中止もしくは縮小になっている中で、「地域や社会のためにできること」について考える割合が上昇していることから、「仙北市プライド」の醸成に向けての各学校の取組の充実が伺える。

3 学校質問紙調査の結果

(1) 概要

本調査における学校質問紙調査について、肯定的回答率を全国と比較した場合、その開きが顕著な項目を次に示す。

「主体的・対話的で深い学びに結び付く探究型授業の充実」、「教職員の研修や研究会の充実」が、全国及び秋田県の実況と比較し高い数値を示しており、積極的に授業改善に取り組んでいる様子が伺える。

また、「小・中学校の連携」「ＩＣＴ端末についての研修と利用」に課題がみられた。ＩＣＴ端末についての活用方法や研修等は令和３年度から積極的に行っており、今後の上昇が期待できる。また、ＩＣＴ端末を用いてのオンライン上での小・中学校の連携も活発になっていくことを期待したい。

学校の児童生徒や地域の実情を踏まえ、仕組みづくりや体制づくりを整備することは、学校・家庭・地域の連携を一層推進し、子どもの成長を継続的に支える一つの視点と考えられる。一層、望ましい学校・教育環境を構築していくことが、検討課題と言える。

(2) 成果と考えられる項目

①小学校で成果と考えられる項目（全国との差が顕著な項目）

質問事項	国比較	県比較
(62) 学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会などを十分に設けていますか	32.4	22.1
(39) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを８００字程度で児童にまとめさせたことがありましたか	28.0	19.9
(38) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れましたか	26.9	19.3
(78) 前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	26.0	14.9
(25) 個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	24.1	10.5
(37) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	18.6	10.5

(79) 平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	18.5	2.0
(57) 調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活 n における事象との関連を図った授業を行いましたか	17.8	9.4
(31) 調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	17.6	15.0
(47) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用など、組織的かつ計画的な取組をしましたか	15.6	12.7
(26) 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	15.4	8.8

②中学校で成果と考えられる項目（全国との差が顕著な項目）

質問事項	国比較	県比較
(37) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	27.4	18.4
(25) 教員は、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	24.4	11.0
(58) 調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行いましたか	23.8	6.4
(74) あなたの学校では、次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか【生徒が1人で活用する場面】	17.4	13.1
(34) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	15.5	11.0
(26) 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	15.5	5.5

(3) 今後の検討課題と考えられる項目

①小学校で課題と考えられる項目（全国との差が顕著な項目）

質 問 事 項	国比較	県比較
(73) あなたの学校では、次のようなコンピュータなどのＩＣＴ機器を活用した取組をどの程度行っていますか【学校と家庭との連絡】	-39.6	-33.1
(70) あなたの学校では、次のようなコンピュータなどのＩＣＴ機器を活用した取組をどの程度行っていますか【教職員間の連絡】	-28.1	-14.1
(64) コンピュータなどのＩＣＴ機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていますか	-22.7	-4.3
(69) コンピュータなどのＩＣＴ機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がありますか	-20.4	-10.8
(10) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習規律（他の人が話をしている時はしっかりと聞く、授業開始のチャイムを守るなど）を維持しましたか	-13.6	-13.4

②中学校で課題と考えられる項目（全国との差が顕著な項目）

質 問 事 項	国比較	県比較
(81) 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	-47.2	-55.4
(20) 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	-44.6	-49.9
(39) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを1,200字程度で生徒にまとめさせたことがありましたか	-40.3	-36.7
(69) コンピュータなどのＩＣＴ機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がありますか	-32.1	-26.8
(79) 平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか	-28.5	-38.8

Ⅳ 改善の方法

1 全体的な取組として

本委員会では、仙北市全体の状況を踏まえて、確かな学力の向上と授業改善の方向性について、意見交換を行った。

本調査の結果から、仙北市児童生徒の課題を解決するための指導の改善点について再掲する。

①国語

小学校では、「読むこと」および「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域に課題が見られる。特に「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける」に課題が見られた。文と写真・表・図等を組み合わせて読む学習を低学年から取り入れ、対応させて読むことを積み重ねていく指導が求められる。

<小学校国語：指導の改善点>

- ◆ 目的に応じ、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つけることができるようにする。
- ◆ 目的を意識し、中心となる語や文を見つけて要約することができるようにする。
- ◆ 文脈に沿って、正しい漢字を書くことができるようにする。
- ◆ 文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることができるようにする。

中学校では、「読むこと」の領域に課題が見られる。「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」の課題改善のために、「構造と内容の把握」「精査・解釈」の学習過程を通して、理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを考えたりすることができるようにする指導が求められる。

<中学校国語：指導の改善点>

- ◆ 話し合いを効果的に進め、お互いの発言を踏まえて、考えをまとめたり広げたり深めたりすることができるようにする
- ◆ 相手の立場に立ち、自分が書いた文章について捉え直し、わかりやすい文章に整えることができるようにする
- ◆ 文章の内容を理解したり、自分の考えを形成したりすることができるようにする
- ◆ 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができるようにする

②算数・数学

小学校では、「図形」の領域に課題が見られる。面積を求める際に、必要な図形の構成を捉えて計算することができるように指導の充実を図るとともに、既習の公式を活用して、計算を能率的にさせることが求められる。

<小学校算数：指導の改善点>

- ◆ 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方について理解できるようにする
- ◆ 図形を構成する要素などに注目し、面積の求め方について筋道を立てて説明できるようにする
- ◆ 量のもつ基本的な性質について理解し、それらの性質を基に考察できるようにする
- ◆ 統計的に問題解決するために、データを分類整理し、データの特徴や傾向を読み取ることができるようにする
- ◆ 小数を用いた倍の意味について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に注目して理解できるようにする

中学校では、「数と式」「関数」の領域に課題が見られる。様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決のために表した表、式、グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実することが大切になる。

<中学校数学：指導の改善点>

- ◆ 数の性質について成り立つ事柄の特徴を数学的に説明することができるようにする
- ◆ 関数の学習の中で、「表・式・グラフ」のうち「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明できるようにする
- ◆ 大きさの異なる2つ以上の集団のデータを比較する際に、相対度数の意味や必要性理解することができるようにする
- ◆ データの傾向をグラフや表などからの的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる
- ◆ ある条件の下で図形を移動させたときに常に成り立つ事柄を見だし、数学的に表現することができるようにする

③児童生徒質問紙調査の結果（小学校）

- ◆新聞を読んでいる割合は、19.9%であり、前年度と同様に低い。新聞離れに課題が見られる。
- ◆授業で学んだことを、実生活で生かすことについて課題が見られる。
- ◆携帯電話やスマートフォン、コンピュータの使い方の約束を守る割合が、国や県と比べて低い傾向にある。情報モラルへの意識、規則正しい生活を送ることに課題が見られる。
- ◆自分の考えを发表或し、自分と違う考えについて考えたりすることに課題が見られる。

④児童生徒質問紙調査の結果（中学校）

- ◆新聞を読んでいる割合は、17.4%であり、前年度と同様に低い。新聞離れに課題が見られる。
- ◆授業で学んだことを、実生活で生かすことについて課題が見られる。
- ◆携帯電話やスマートフォン、コンピュータの使い方の約束を守る割合が、国や県と比べて低い傾向にある。情報モラルへの意識、規則正しい生活を送ることに課題が見られる。

（１） 指導改善の具体策

教科に関する調査、児童生徒質問紙から見てきた仙北市の課題を解決するために、それぞれの部会で出された具体策を次に示す。

＜①小学校国語部会で出された具体策＞

- ・文と写真、表、図などを組み合わせて読むことを低学年から指導していく。
- ・一時間ごとのめあての設定をし、何のために読み取るのかを明確にする。
- ・要約について、学年をさかのぼって振り返りができるよう、系統立てて学習を進める。
- ・新聞（子ども新聞等も含む）を子どもの目の触れる場所に置き、新聞に慣れ親しませる。
- ・辞書を活用する機会を増やし、語彙を増やす。

＜②中学校国語部会で出された具体策＞

- ・話し合いをする際の基本的なスキルを身につけさせる。
 - ＜話題を意識しながら、その経過を捉えて話したり聞いたりする＞
 - ＜話し合いの展開を、司会だけでなく他の参加者が促すことができるようにする＞
- ・標記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などを確かめることができるようにする。
- ・構造と内容の把握、精査・解釈の学習過程を通して、理解したことを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを考えたりすることができるようにする。
- ・敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、てきせつにつかうことができるようにする。

<③小学校算数部会で出された具体策>

- ・文章題の題意が読み取れていないため、授業時に問題の把握に丁寧に時間をかけて確認する。
- ・図形の要素「底辺」「高さ」を問題を回転させながら確認する。特に「高さ」についてはその判断理由についても説明できるようにする。
- ・たくさんの情報の中から必要なものを選ぶ力をつけるために、底辺・高さ以外の数値が入った問題を提示する。
- ・振り返りの場面で、分かったことを自分の言葉で具体的にまとめる。
- ・友だちの解法の仕方を読み取って、説明する学習活動を展開する。
- ・「問題場面の読み取り⇒『ことば』による立式⇒数字での立式⇒計算」を普段の学習で意識しながら取り組む。

<④中学校数学部会で出された具体策>

- ・正確な計算ができるようにドリル学習をさせる。
- ・式・表・グラフ等を用いて、根拠を明らかにして説明させる活動を通して、その質を高めていく。
- ・グループ内説明、ペアでの説明、他者説明など、思考の過程や根拠を説明する機会を多くの生徒に与える工夫をする。
- ・資料の活用について、「比較し、自分なりの考えをもつ」ために、生徒に必要感をもたせる資料を提示する
- ・日常で用いられている数学を紹介し、数学に対する興味や意欲を高める。

<⑤小学校研究主任会で出された具体策>

- ・家庭学習に対する指導について
 - ①学年に応じた時間設定の目安を提示（学年×10分＋α）
 - ②学校全体として、全教員で共通理解をして取り組む
 - ③一人一人が課題意識をもって取り組めるように指導
- ・ゲーム時間の適切な管理について
 - ①家庭を巻き込む指導
 - ②睡眠時間と関連付けて指導
 - ③心と体の健康について全校に指導
- ・教科指導について
 - 「英語の勉強が好き」の割合が低いいため、コミュニケーション活動の楽しさを伝える授業の工夫をする

＜⑥中学校研究主任会で出された具体策＞

- ・家庭学習に対する指導について
 - ①学校区ごとに統一した目安時間を提示
 - ②担任以外の家庭学習チェック（管理職・部担当等）
 - ③家庭学習ガイダンス（春：新入生対象、11月：全校生徒対象）
- ・ゲーム時間の適切な管理について
 - ①小中足並みをそろえたアウトメディアチャレンジ
 - ②アウトメディアからメディアコントロールへ
 - ③生徒会主導でのリールづくり→家庭を巻き込むためのお便り配布
 - ④講演会（スクールカウンセラー等）
- ・問題解決能力を総合的な学習の時間で鍛えていく。
- ・昔は、生活の中から自然に学んでいたことが、今は学校が意図的に経験させないと学べない状況である。子どもに必要感をもたせながらそのような経験をさせることが必要である。

（２） 仙北市学力向上施策の焦点化

今年度、仙北市学力向上施策として示した具体的方策は次の通りである。

- (1)児童生徒の姿から、身に付けさせたい力を明確にした単元構成による授業の推進
- (2)思考を広げ、深めることのできる言語活動の工夫
- (3)児童生徒の問いを生かした探究型授業の一層の推進
- (4)基礎・基本の定着を図る指導方法や指導体制の工夫
- (5)基本的生活習慣の更なる改善と家庭学習の充実

この5つの方策について、今後特に力を入れて取り組むべきものを6部会からで選んでもらった。どれも仙北市の課題を解決するためには大切であるが、その中でも3部会から力を入れて取り組みたいと出されたのが次の方策である。

（２）思考を広げ、深めることのできる言語活動の工夫

（３） 各中学校区の情報交換から

各校の課題及びその改善に向けた取組について、中学校区毎に情報交換を行った。共通する成果、課題を洗い出し、課題に対して、9年間を見通した対応策を話合った。

△共通する課題『生徒指導面』

- ①メディアに触れる時間が長い
- ②自己肯定感が低い
- ③自己表現が苦手

○対応策

- ①学年や実態に応じてメディアコントロールについて考えさせる
- ②メディアコントロールに家庭を巻き込んでいく（情報発信、情報提供）
- ③児童・生徒の活躍を小・中で共有してお便り等で紹介
- ④小・中連携で取り組めることを増やす（授業・集会・あいさつ運動など）

△課題『学習指導面』

- ①家庭学習時間が短い
- ②基礎学力の定着
- ③授業で学んだこと生活の中で活用する能力
- ④筋道を立てて説明すること

○改善策

- ①小・中連携して家庭学習の目標・目安の時間を設定
- ②家庭学習の手引き「9年間版」の作成
- ③中学校の一人勉強ノートを小学生に紹介
- ④気軽に行える「授業を見合う会」の設定
- ⑤中学生から小学生へのおすすめの本の紹介

学習指導面の課題を話し合う中で、どの中学校からも「読解力・表現力」の向上について話題になった。

（４） 共通実践すべき具体的方策

先述の結果と、ＩＣＴ端末が整備されその活用が進んでいることを踏まえ、仙北市内小中学校で共通理解の上で共通実践すべき方策を

言語活動の充実～ＩＣＴ端末の活用を通して～

とする。

また、コロナ禍による心のつながりの重視という観点から、

あいさつの励行

を実践していきたい。言語活動の一番の基本、きっかけとなることが「あいさつ」となることもあり、この２つを柱として実践を行っていきたい。

同一中学校区での研修や研究、情報交換等による義務教育９年間の系統的・段階的な指導の更なる充実を目指すとともに、「共通で目指す子どもの姿」、「共通で取り組んでいること」を可視化するなど明確にしてその実践を継続していく。

2 学年・教科・区分・設問ごとの具体的な改善の方策

学年・教科・区分について設問ごとの結果から、改善のために検討の余地があるものについては、次の資料等を活用して、課題解決を目指す必要がある。

- 「令和３年度 学校改善支援プラン」〈令和３年３月 秋田県検証改善委員会〉
- 「令和３年度 全国学力・学習状況調査【小学校国語】報告書」
- 「令和３年度 全国学力・学習状況調査【小学校算数】報告書」
- 「令和３年度 全国学力・学習状況調査【中学校国語】報告書」
- 「令和３年度 全国学力・学習状況調査【中学校数学】報告書」
- 「令和３年度 全国学力・学習状況調査【質問紙調査】報告書」
〈令和３年８月 文部科学省 国立教育政策研究所〉

- 「令和３年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例」
【小学校国語・算数】【中学校国語・数学】
〈令和３年９月 国立教育政策研究所教育課程研究センター〉

- 「平成３１年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた
学習指導の改善・充実に向けた説明会」説明資料
【小学校国語・算数】【中学校国語・数学】
〈令和３年１１月 国立教育政策研究所教育課程研究センター〉

- 「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力・判断力・表現力の育成に向けて～」
【小学校版】 〈平成２２年１２月 文部科学省〉
【中学校版】 〈平成２３年 ５月 文部科学省〉

- 「学習評価の在り方ハンドブック」
〈令和元年６月 国立教育政策研究所教育課程研究センター〉

3 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について

1 地域の人材活用の仕組み作りと財政的支援

仙北市教育委員会は学校における地域人材等の活用及び特色ある取組について、一層の支援を行う必要がある。

本市教委では平成20年度から「学校教育バックアップ事業」を開始し、市内の各小・中学校で教育支援活動をしている地域住民を「バックアップチーム」として登録し支援している。今後も小・中学校において、授業場面での活用や授業サポートとしての活用を行い、事業を充実させていく。

また、平成25年度からは、各学校の特色ある「ふるさと教育・キャリア教育を推進する取組」や教材の充実に対し一層の財政的な支援も実施している。平成26年8月には「キャリア教育の視点を重視したふるさと教育」指導資料として冊子「ふるさと仙北学」を発行、各校に配布した。平成27年12月にも同冊子を増刷し、各校に配布した。ふるさと教育を基盤とした取組の充実が児童・生徒の生きる力、地域社会における自己有用感の育成につながるようさらに働きかけていく。

さらに、地域学校協働本部の設置を目指し、学校・家庭・地域総合推進事業を立ち上げ、地域人材活用の仕組み作りに現在取り組んでいる状況である。

2 北浦教育文化研究所研究委員会の充実について

上記Ⅳ－2の各種資料については、各学校の研修における活用とともに、研究委員会での研修内容として取り組むことが必要と考える。研究委員会の組織の見直しと併せ、各校の充実した取組に効果のある研究委員会の開催を目指す。

資料 1

「全国学力・学習状況調査」結果取扱要綱

平成19年12月20日
教育委員会告示第19号

最終改正 令和元年10月教育委員会告示第22号

(目的)

第1条 この要綱は、文部科学省が実施する「全国学力・学習状況調査」(以下「本調査」という。)の仙北市及び仙北市立小・中学校の調査結果について文部科学省から提供される情報(以下「結果」という。)の取扱について必要な事項を定めることを目的とする。

(結果の公表)

第2条 仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- (1) 教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- (2) 本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- (3) 本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- (4) 本調査により測定した学力は特定の一部であること
- (5) 本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

(結果の公表の内容)

第3条 文部科学省が市町村教育委員会に提供する結果の資料(別表1)について、公表に係る取扱は次の通りとする。

- (1) 「1」の公表については、国及び県の平均正答率と比較して(別表2)の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を(別表2)の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係についても併せて公表する。平均正答率の比較以外の結果は公表しない。
- (2) 「2」の公表については、「学習指導要領の領域別」「評価の観点別」「問題形式別」に国及び県の平均正答率と比較して(別表2)の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を(別表2)の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係についても併せて公表する。各設問ごとの結果の比較は公表しない。
- (3) 「別表1」の「3」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。

- (4)「別表 1」の「4」については、公表する。
- (5)「別表 1」の「5」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。
- (6)「別表 1」の「6」～「8」は公表しない。

(改善策の立案)

第 4 条 結果を受けた改善策は仙北市教育委員会北浦教育文化研究所「研究主任部会」及び「算数・数学学習指導研究委員会」、「国語学習指導研究委員会」に改善策の立案に必要な若干名の特別委員を加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- (1)主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- (2)主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- (3)改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- (4)その他

(結果の公表の方法)

第 5 条 第 3 条に示す公表の内容及び第 4 条に示す改善策は、仙北市教育委員会北浦教育文化研究所において、改善策の策定後すみやかに報告書を作成し公表する。

(情報公開)

第 6 条 仙北市情報公開条例第 7 条 6 号を根拠として第 3 条に示す公表内容以外の情報は不開示情報とする。

(その他)

第 7 条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が別に定める

附則

この告示は、平成 19 年 12 月 20 日から施行する

附則

この告示は、平成 26 年 11 月 28 日から施行する

附則

この告示は、令和元年 10 月 1 日から施行する

(別表 1)「文部科学省が市町村教育委員会に提供する資料」(第 3 条関係)

	内 容	備 考
1	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果概況	(1)棒グラフ(正答数別児童生徒の割合) (2)数値(正答数別の児童生徒数、平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差)
2	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	(1)表(「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の平均正答率) (2)表(各設問ごとの「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の正答率、無回答率)
3	各市町村域内の公立学校全体の質問紙調査の回答状況	(1)表(児童生徒質問紙の各質問の選択し別の児童生徒数、割合)(選択肢別の学校数、選択肢別の学校数の割合) (2)棒グラフ(各質問の選択肢別の児童の割合)(選択肢別の学校の割合)
4	各市町村が設置管理する学校の参加概況等	
5	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果と児童生徒質問紙調査の結果のクロス集計表	(1)表(各質問について*四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数) (2)表(各質問について*四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数の割合)
6	各学校の各教科区分別の調査結果概況	各学校に提供される情報
7	各学校の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	各学校に提供される情報
8	各学校の各児童生徒の各教科の調査・児童生徒質問紙への解答(回答)状況	各学校に提供される情報

「*四分位層」…成績の上位から 25%のきざみで 4 つのグループに分け相関の度合いを示す

(別表 2)「(別表 1) の 1 及び 2 の公表に係る階層区分と表現」(第 3 条関係)

	階層区分	表現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +6% 以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +6% 未満～-6% より大きい状況であるもの	おおむね満足できる状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が -6% 以下であるもの	改善が必要な状況

資料2

令和3年度 仙北市「全国学力・学習状況調査」結果分析・改善委員会名簿

	委 員 氏 名	備 考
1	吉澤 千恵子	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（角館小学校）
2	佐藤 知栄美	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（白岩小学校）
3	小松 大貴	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（生保内小学校）
4	菅原 美奈子	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（神代小学校）
5	大澤 ハルミ	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（西明寺小学校）
6	細川 誠	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（桧木内小学校）
7	木次谷 亜沙紀	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（角館中学校）
8	佐藤 義紀	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（生保内中学校）
9	芦沢 雅子	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（神代中学校）
10	九嶋 正明	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（西明寺中学校）
11	鈴木 駿太	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員（桧木内中学校）
12	西村 浩美	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（角館小学校）
13	佐々木 潤一	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（白岩小学校）
14	相澤 恭奈	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（生保内小学校）
15	高橋 説子	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（神代小学校）
16	加藤 奈緒	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（西明寺小学校）
17	千葉 仁	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（桧木内小学校）
18	高橋 範幸	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（角館中学校）
19	阿部 匠	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（生保内中学校）
20	小松 朋子	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（神代中学校）
21	藤田 千秋	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（西明寺中学校）
22	武藤 頼子	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員（桧木内中学校）
23	赤上 育江	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（角館小学校）
24	今野 俊	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（白岩小学校）
25	三浦 和義	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（生保内小学校）
26	高橋 光雄	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（神代小学校）
27	桑野 敬太	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（西明寺小学校）
28	鎌田 真寿美	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（桧木内小学校）
29	佐藤 美紀	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（角館中学校）
30	佐藤 美香	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（生保内中学校）
31	久米 徹	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（神代中学校）
32	小野 栄一郎	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（西明寺中学校）
33	山口 ひとみ	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員（桧木内中学校）
34	梁田 一史	北浦教育文化研究所 研究推進アドバイザー（角館小学校）
35	伊藤 充敏	北浦教育文化研究所 研究推進アドバイザー（白岩小学校）
36	黒川 修二	北浦教育文化研究所 研究推進アドバイザー（生保内小学校）
37	黒澤 勤	北浦教育文化研究所 研究推進アドバイザー（神代小学校）
38	田口 匡浩	北浦教育文化研究所 研究推進アドバイザー（西明寺小学校）
39	戸嶋 和人	北浦教育文化研究所 研究推進アドバイザー（桧木内小学校）
40	佐々木 泰宏	北浦教育文化研究所 研究推進アドバイザー（角館中学校）
41	佐藤 公則	北浦教育文化研究所 研究推進アドバイザー（生保内中学校）
42	福田 裕司	北浦教育文化研究所 研究推進アドバイザー（神代中学校）
43	田口 裕文	北浦教育文化研究所 研究推進アドバイザー（西明寺中学校）
44	本道 法順	北浦教育文化研究所 研究推進アドバイザー（桧木内中学校）
45	伊藤 昭光	北浦教育文化研究所 研究委員
46	門脇 貴一郎	北浦教育文化研究所 研究委員
47	武藤 洋史	北浦教育文化研究所 研究委員